

## 国際子ども図書館の子ども向け館内サービスの現況と今後の展開

国立国会図書館 国際子ども図書館 児童サービス課（司書）  
橋詰 秋子（はしづめ あきこ）

国立国会図書館国際子ども図書館は、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」という理念のもと、3 つの役割（①児童書専門図書館としての役割、②子どもと本のふれあいの場としての役割、③子どもの本のミュージアムとしての役割）に沿って、様々な活動を行っています。本日は、「②子どもと本のふれあいの場としての役割」の中で行っている、子ども向け館内サービスをご紹介します。

### 1 国際子ども図書館とは

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館として設立された、日本で唯一の国立の児童書専門図書館です。「子ども読書年」であった 2000 年に第一期開館し、2002 年に全面開館しました。今年で 13 年目を迎える国際子ども図書館の職員数は、非常勤を含めず、全体で 36 人です。内訳は、館長 1 人、主任司書 2 人、企画協力課 10 人、資料情報課 14 人、児童サービス課 9 人です。このうち子ども向け館内サービスを担当しているのは、私が所属する児童サービス課です。

国際子ども図書館は、直接子どもにサービスするとともに、「子どもと本をつなぐ大人」を支援するという二重の役割を持っています。この二重の役割は、これから述べる子ども向け館内サービスにおいても意識しています。すなわち、来館する子どもに対応するだけでなく、そこで得られた経験・知識を、日本全国の図書館で働く「子どもと本をつなぐ大人」を支援するための情報発信や研修・イベントにつなげています。

### 2 児童図書館サービス

国際子ども図書館は、2 つの子ども用閲覧室（「子どものへや」「世界を知るへや」）において児童図書館サービスを行っています。これらのへやは、どなたでも自由に入ることができます。「子どものへや」には、長く読み継がれてきた児童書を中心に約 11,000 冊を開架しています。天井一面が照明になっているため、へやの中では影ができません。「世界を知るへや」には、子どもたちが国際理解を深められるように、約 120 の国と地域に関する児童書を置いています。なお、ここでは個人の方への資料の館外貸出しはしていません。

「子どものへや」「世界を知るへや」で行っている児童図書館サービスは、基本的には、我が国で様々な経緯を経て発展してきた、児童図書館サービスの理論と方法を踏まえています。具体的に言えば、“子どもが本と出会い、本の楽しみを知り、さまざまな読書体験ができるよう、児童図書館員によって選び抜かれた多種多様な本を中心とするコレクションを備え、児童図書館員が子どもと本を結びつける”<sup>注)</sup> 活動を行っています。

### (1) コレクション形成

「子どものへや」「世界を知るへや」には、国際子ども図書館が有する約 40 万点の蔵書から、子どもたちに読んでほしい本を中心に約 13,000 冊の児童書（絵本、読み物、知識の本、雑誌など）を揃えています。これらのへやで提供する資料は、子どもが遠慮なく利用できるように、永く保存する必要がある納本資料ではなく、複本を別に購入しています。

コレクションの更新（選書・受入整理・除架）は、児童サービス課の職員が担当しています。選書会議を毎週開くなどして、魅力的なコレクション維持に努めています。選書に当たっては、国際子ども図書館が所蔵する納本資料も参考にしています。次からお話する直接サービスは、こうして形成されたコレクションが土台になっています。

### (2) フロアワークとレファレンス

カウンターにいる職員は、日常的に、フロアに出て、来館した子どもと本を出会わせるフロアワークを行っています。読みたい本を事前に決めてくる子は少ないため、適切なタイミングで、その子の年齢・レベルに合った本を案内（ガイド）することは大切だと考えています。案内の際は、手渡した本の魅力が伝わるように簡潔なブックトークをしたり、文字が十分に読めない子に対しては読み聞かせをしたりもします。また、「うちの子に何を読ませたらよいか」という保護者への質問にも答えます。

子どもからのレファレンス質問にも対応しています。学校の休暇期間には、宿題で出された調べもの（自由研究）のために来館する小学生が増えます。レファレンスの回答は記録に残し課内で共有することで、次のレファレンスにいかしています。へやに設置されている「国際子ども図書館子ども OPAC」に興味を持つ子も多いので、その使い方を教えることもしばしばです。なお、「国際子ども図書館子ども OPAC」は、小学生向けインターフェイスの蔵書目録です。

### (3) 本の展示

子どもが本を手に取りやすいように、季節ごとにテーマを決めて児童書を展示しています。へやには、こうした展示コーナーが 7 つあります。展示の都度タイトルリストを作成し、へやで配布するとともに、ホームページにも PDF を掲載しています。

また、ホームページと連動した本の紹介も行っています。「国立国会図書館キッズページ」の「よんでみる？」というページで、小学生向けに、毎月ノンフィクションの本を紹介しています。「子どものへや」には、当該月に「よんでみる？」で取り上げられた本を紹介するコーナーを設置しています。

#### (4) 子どものためのおはなし会・ちいさな子どものためのわらべ歌と絵本の会

子どもに読書の楽しさを伝え、図書館や本の世界に親しむきっかけとなるように、「子どものためのおはなし会」と「小さな子どものためのわらべ歌と絵本の会」を、「世界を知るへや」の隣にある「おはなしのへや」で行っています。どちらの会も職員が交代で担当しています。2012年度の実績を申し上げますと、前者のおはなし会を177回実施し参加者は延べ約1,200人、後者のわらべうたの会を24回行い参加者は延べ約600人でした。

「子どものためのおはなし会」は、毎週土曜日と日曜日に実施しています。子どもが年齢に合ったおはなしや絵本を楽しむことができるように、4才から小学校1年生までの会と小学校2年生以上の会という年齢別の会を2回行っています。プログラムは、ストーリーテリング、絵本、詩、ことばあそびの本、わらべうたなどを組み合わせています。昔話などのおはなしを、語り手が本を見ないで語るストーリーテリングがプログラムの中心です。また、5月5日の子どもの日などには、通常のおはなし会の特別版である「おたのしみ会」も行っています。

「ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会」は、3歳以下の子どもとその保護者を対象に、月2回、実施しています。子どもと保護者の方が一緒に楽しめるわらべうたを多く取り入れています。わらべうたで言葉の響きやリズムを楽しみ、人の声を聞く心地よさを体験した子どもは、絵本を読む声にもよく耳を傾けるようになり、自然と本に興味を持つようになります。この会では、わらべうた(6~9種類)に絵本2、3冊を組み合わせるのを基本として、その日参加する子どもの年齢に合わせてプログラムを組み立てています。

#### (5) 図書館見学

図書館をよく知ってもらうために、幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の団体見学を受け入れています。小学校以下の見学では、学校側の要望に応じて、館内見学におはなし会を組み合わせた内容としています。キャリア教育に力を入れ始める中学校以上の見学では、館内見学に加え、職員が職業インタビューを受けたり国際子ども図書館の使命・活動を紹介したりするプログラムにしています。2012年度は約50校1,000人の見学者を受け入れました。

また、夏休み期間中には、学校単位でなく個人で参加できる見学ツアーを実施しています。特に中高生向けには、館内見学と職員による仕事紹介を組み合わせた「中高生のための『国立国会図書館の仕事』紹介」講座を開催しています。2012年度は、これらのツアーと講座に130人が参加しました。

### 3 子ども向けイベント

国際子ども図書館では、これまで説明してきた定常的な児童図書館サービスに加え、子どもと本の出会いの場を提供するために、様々な子ども向けイベントも実施しています。

#### (1) 科学あそび

科学の本への興味を誘うために、毎年夏に「科学あそび」を開催しています。「科学あそび」は、科学実験という実体験を通して、子どもたちの科学や科学の本に対する興味を育てる催物です。こうした科学の本との出会いの場の提供は、国際子ども図書館が特に力を入れている分野です。日本では児童館や科学館でも同様の科学あそびが行われていますが、必ず本の紹介とブックリスト配布を行うところが国際子ども図書館の「科学あそび」の特徴です。「たまごの実験～アーチ型の秘密をさぐる～」というテーマで行った2012年の「科学あそび」は、外部から講師を招いて、小学1年生から中学1年生まで計74人が参加しました。参加した子どもたちは、卵のアーチ型の強さを学ぶため生卵を並べた上に乗るなどの実験をしました。最後に、職員がブックトークをして、関連する本を紹介しました。

## (2) 外部機関と連携したイベント

博物館や動物園、音楽ホールが集まる上野という立地をいかして、近隣機関と連携したイベントを開催しています。連携イベントは、普段図書館に来ない子を図書館に呼びかけになるので、今後も積極的に取り組みたいと考えています。

職員による動物を題材にした絵本の読み聞かせと、動物園の飼育員が絵本に登場する動物についておはなしする「子どものための秋のおたのしみ会」を、上野動物園と連携して開催しています。2012年は、10月にゴリラの絵本とゴリラ飼育員さんのおはなしを、11月にゾウの絵本の読み聞かせとゾウの飼育員さんのおはなしを行いました。

音楽イベントも行っています。図書館のホールを使った「子どものための絵本と音楽の会」を、東京・春・音楽祭実行委員会との共催で実施しています。今年は2013年3月に開催し、ヴァイオリンとチェロの生演奏に合わせて、クロケット・ジョンソン作の絵本『はろどまほうのくにへ』の朗読を行いました。さらに、「子どものための音楽会」も、東京文化会館（音楽ホール）との共催で行っています。これは2012年から開始したイベントで、初回は、10月に開催し、宮沢賢治に関連した曲をヴァイオリンとチェロで演奏し、最後に職員が宮沢賢治や音楽に関する児童書を紹介する内容でした。

## (3) 夏休み読書キャンペーン

来館者の多い夏休みには、毎年、「子どものへや」「世界を知るへや」を使って、「夏休み読書キャンペーン」を行っています。これは、子どもたちに様々な本に出会ってもらうための企画で、本を読んで問題に答えるクイズです。子どもの年齢に応じて、初級編・中級編・上級編の3つの問題を用意します。2012年度の参加者は、延べ1,104人でした。

## 4 今後に向けて：国際子ども図書館の増築改修と「中高生向け調べものの部屋」の新設

現在、国際子ども図書館では、2015年夏の竣工を目指して、建物の増築改修工事を行っています。この増築改修に合わせて、2015年に新たなサービス展開を行う予定ですが、その一つが、中高生向けの「調べものの部屋」の新設です。これまでお話してきた子ども向け館内サービスは、一部を除き、主に小学生以下を想定したものでしたが、今後は中高生

を対象としたサービスにも力を入れていく計画です。

「調べものの部屋」は、中高生、その学習支援に携わる学校図書館員、教員などを対象に、図書館における学習支援サービスのモデルとなるような場の提供を目指して設置する閲覧室です。この部屋では、「国際理解」などの幾つかのテーマに沿った、中高生の学習に役立つ図書館資料を揃え、校外学習などで来館した中高生に、図書館の本を使った探究学習の体験プログラムを提供する予定です。現在、部屋の設置準備を進めるために、先進的な活動を行っている学校図書館の職員や図書館情報学の研究者の協力を得ながら、「中高生向け調べものの部屋の準備調査プロジェクト」を行っています。なお、このプロジェクトにおいても先ほど述べた「二重の役割」を意識しており、プロジェクトの成果は、設置準備に役立てるだけでなく、日本全国の図書館関係者が参考にできるように、成果報告書としてまとめ本年度中に刊行する予定となっています。

以上、簡単ではありますが、国際子ども図書館の子ども向け館内サービスの現況と今後の展開について、報告を終わりにいたします。

注) 引用元資料：日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会.『児童図書館サービス 1』 日本図書館協会, 2011, p.5